



第41回企画展「あびこにコウノトリがやってきた」は千葉県野田市でコウノトリの放鳥を始める以前に開催したもので、大陸から飛来したコウノトリにたくさんの方が注目していたことが記憶に残っています。第85回企画展「フクロウさんちの子育て日記」は、博物館が巣箱にカメラをつけて10年近く観察してきたフクロウの繁殖記録を来館者の方に見てもらえる機会だったので、とても印象に残っています。博物館の自然観察会「てがたん」をテーマにした企画展は、これまでに3回開催しており、生き物の関わり合いや季節の変化など、様々な視点で展示を作成してきました。ボランティアスタッフと一緒に作る観察記録を生かした内容なので、今後も定期的に開催したい企画展です。(村松)



我孫子市では年間を通して100種程の鳥が見られます。第65回企画展「身近な鳥—我孫子の鳥を調べてみたら—」では、当館が行っている調査のデータを元に、どんな鳥がどの位見られるのか、環境ごとに分けて紹介しました。第66回企画展「鳥の骨展—空飛ぶ骨組み—」では収蔵している骨格標本を一堂に公開し、骨組みと鳥の生活との関係を探りました。丈夫さと軽さを兼ね備えた鳥の骨について、最新のCTスキャン映像を使い説明しました。第76回企画展「鳥・西・鶏・とり」では、企画展開催年の酉年にちなみ、人と鳥がどのように関わってきたのか、鳥に対するさまざまな視点から展開しました。(染谷)

あびこ鳥だより

Autumn・Winter

2020

【秋・冬号】

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.59



鳥の博物館における新型コロナウイルスに関連した対応について

新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対策のため、入館時に入館記録票への連絡先の記入・手指消毒・マスク着用をお願いしています。また入館者数の制限を設けています。

今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況により、予定しているイベント等を中止・延期とする場合があります。イベントの詳細につきましては、博物館ウェブサイトのイベント情報または広報あびこでお知らせする予定です。

利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、館内整理日、年末年始(12/29～1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	500円	
	高校生・大学生	400円	

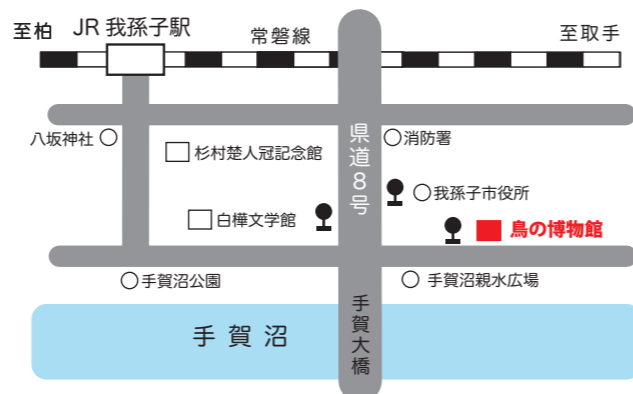
- ・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方(付き添い1名含む)
- ・中学生以下の方は入館無料
- *白樺文学館、杉村楚人冠記念館との共通券

●お問い合わせ：我孫子市鳥の博物館
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3
☎: 04-7185-2212 FAX: 04-7185-0639



交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由
バスで「市役所」下車、徒歩5分
*毎週土日祝日は博物館経由のバスが運行しています
我孫子駅南口バス停より、天王台行きバスで「鳥の博物館前」下車
天王台駅南口バス停より、我孫子駅行きバスで「鳥の博物館前」下車
自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場無料/大型バス駐車可)



特集「学芸員が選ぶ、印象に残るこの企画展！」

表紙の鳥 ウミネコ

「学芸員が選ぶ、印象に残るこの企画展！」

我孫子市鳥の博物館では我孫子市市制施行50周年と博物館開館30周年を記念して、10月末から11月の初めにかけて我孫子市生涯学習センター「アピスタ」で企画展ポスター展を開催しました(写真1)。1990年の開館以来、鳥類学、我孫子の自然、鳥と人との関わりなど様々なテーマで企画展を86回開催しました。今回の特集では、展示を企画作成する側である学芸員が選んだ印象深い企画展をポスターとともにご紹介します。

現在は特別企画「日本の鳥～収蔵標本公開～」を開催しています。351体のほく製標本を一堂に展示していますので、ぜひご来館ください(展示期間は2021年1月31日まで、特別企画は来年度も開催を予定しています)。



第13回(1993年-1994年)

開館後3年経ち収蔵標本数も増えたことから、鳥の形態を実物標本で確認できるような企画展を3回シリーズで実施する計画を立てました。初回は嘴に注目し、構造と機能を紹介しました。特に餌と嘴の形態との関係については、ヒトの使う道具にたとえることで、各種それぞれ合理的な嘴の形であることを直感できるように工夫しました。その後「鳥の形とくらし」シリーズでは「あしのはたらき」、「つばさと飛行」をサブテーマとした企画展を実施し、それぞれ展示ガイドブックを作成しミュージアムショップで販売しました。今でも鳥学の基礎的な資料として一定の需要があるようです。(齊藤)



第36回(2002年)

昭和30年代の我孫子の原風景を残す岡発戸・都部の谷津田の鳥と自然を紹介する企画展でした。ちょうど我孫子市が、谷津田の自然を保全活用する谷津ミュージアム事業構想を策定した年です。人々のくらしと調和しながら維持されてきた自然環境のしくみや、生き物のすみ場所としての谷津田の自然の特徴について、所蔵する剥製標本のほかにミニジオラマや餌生物の樹脂封埋標本を新作して展示しました。また岡発戸・都部の谷津田の自然に関する既存の生物調査資料をまとめたガイドブックを作成し、関係機関に配布しました。この冊子の資料請求も多々あり、持続可能な自然環境の利用を考える一助となりました。(齊藤)



第69回(2014年)

2014年に東京で開催された国際鳥類学会議に併せて、「山階コレクション展-日本の鳥学を築いた研究所の貴重標本-」を山階鳥類研究所との共催で開催しました。リョコウバトなどの絶滅種やヤンバルクイナのタイプ標本など、研究所の歴史とともに集められた重要な標本を鳥の博物館で一堂に展示できたことは光栄なことでした。その一方で、世界に1点しかないミヤコショウビンなどの貴重な標本をお預かりする重責は大きなプレッシャーでした。無事にすべての標本を研究所にお返しした時は大変ほっとしたのをよく覚えています。(小田谷)



第86回(2020年)

2020年の「バンディング展-足環でわかる鳥の渡り-」も、山階鳥類研究所と共催で実施しました。バンディング=鳥類標識調査は山階鳥類研究所が環境省の委託を受けて継続している主要な事業ですが、これまでその成果について鳥の博物館で取り上げたことはありませんでした。バンディングでは鳥に足環をつけて、その渡りや寿命を調べます。実際の調査がどのように行われているのか、また、どのような成果が得られているのかを、豊富な実物資料や実際の足環の回収記録をもとに展示することができました。今後も、特色ある企画展を開催していきたいと思っております。(小田谷)



第46回(2007年)

秋篠宮文仁親王は、公益財団法人山階鳥類研究所の総裁をつとめられ、家禽類の研究者としてもご活躍です。同研究所の協力を得て、殿下が外遊のうちに収集された各国の鶏の民芸品をお借りすることが出来たことからこの企画展が実現しました。美術品輸送車をチャーターし、皇居から鳥の博物館まで約50点の民芸品を慎重に輸送しました。展示では民芸品を集めたコレクションコーナーと鶏の起源や品種改良について紹介した鶏の生物学のコーナーを設置しました。天然記念物になった品種や外国で作出された品種の剥製など多数展示しました。期間中、鶏と人をテーマに民族生物学の視点から秋篠宮殿下でご講演くださいました。(齊藤)



第80回(2018年)

2018年の「日本の海鳥-カムリウムスズメと行く海の旅-」では、日本を一周する渡りをするカムリウムスズメという海鳥を主人公に、国内でみられる海鳥を紹介するという、ちょっとひねった構成の展示を担当しました。学芸員の染谷さんにデザインしてもらったかわいい?キャラクターに海鳥の生態などを語ってもらうことで、普段私たちの暮らしにはあまり馴染みのない海鳥たちについて、わかりやすい紹介ができたのではないかと思います。(小田谷)



写真1.アピスタでの展示の様子

鳥類調査

学芸員が毎月行っている手賀沼の鳥類調査の結果です。

科名	種名	個体数(羽)						
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
カモ	オカヨシガモ					2	35	37
	ヒドリガモ					83	161	244
	マガモ		2			182	850	1034
	カルガモ	13	14	26	67	246	430	796
	マガモ×カルガモ雑種						1	1
	オナガガモ					22	31	53
	コガモ				21	398	187	606
	ホシハジロ					30	6	36
	キンクロハジロ					1		1
	スズガモ						3	3
カイツブリ	カイツブリ	21	24	20	11	60	39	175
	カンムリカイツブリ					42	92	134
	ハジロカイツブリ					16	38	54
ウ	カワウ	80	82	97	132	64	111	566
	ゴイサギ			4	1	1		6
サギ	アオサギ	2	8	7	19	20	16	72
	ダイサギ	1	3	6	19	13	9	51
	チュウサギ				6			6
	コサギ		3	4	7	12	10	36
	ヒクイナ					2	1	3
クイナ	バン					5	1	6
	オオバン	8	10	10	6	214	95	343
チドリ	コチドリ	1	1					2
シギ	タシギ						6	6
	イソシギ				1			1
カモメ	ユリカモメ					29	59	88
	セグロカモメ						1	1
	カモメ属種不明						1	1
	コアジサシ	3	8					11
ミサゴ	アジサシ		1					1
	ミサゴ				1	3	2	6
タカ	トビ	2	1		2	3		8
	ノスリ					1		1
カワセミ	カワセミ		5	4	4	10	4	27
カラス	ハシボソガラス		1		4	12	3	20
セキレイ	ハクセキレイ					1		1
ツバメ	ツバメ	3						3
14科	37種	134	163	184	295	1472	2192	4440

外来種・家禽	コバクチョウ	2	12	20	8	17	12	71
	アヒル			1				1

調査日:2020年6月24日、7月15日、8月20日、9月18日、10月28日、11月20日(9:00~12:00)



オオバンのつがい(6月)



コバクチョウの親子(8月)



換羽中のカルガモ(8月)



エクリプス羽のコガモ雄成鳥(10月)



ミサゴ(11月)

写真は調査区外で撮られたものもあります

記事は4ページに続きます